

## 平成24年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

### 1. 研究の概要

プロジェクト名	放課後児童クラブにおける食と静養のための空間整備に関する研究		
プロジェクト期間	平成24年度（平成23年度～平成24年度）		
申請代表者 (所属講座等)	鈴木 佐代 (家政教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	岡俊江（九州女子大学家政学部人間生活学科） 豊増美喜（大分大学大学院工学研究科） 秋武由子（福岡教育大学非常勤講師）
取組方法・取組実績の概要	<p>放課後児童クラブの食と静養のための空間とその環境について調査・分析を行い、整備方法を検討するための取組方法および取組実績の概要（平成24年度分）を以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 昼食および休息に対する保育方針と空間の使い方の把握（H24年8月実施） 北九州市の放課後児童クラブ4施設を調査対象とし、昼食および午後の休息について、①指導員の保育方針をヒアリング調査により把握するとともに、②児童と指導員の行動と空間の使い方を観察調査した。</li> <li>2. 夏季の室内環境（温度、騒音レベル）の測定（H24年8月実施） 上記4施設を対象に、昼食時および休息時の室内温度および騒音レベルの測定を行った。</li> <li>3. 先進事例の調査（H25年3月実施） 東京都のJR駅構内にある公設民営の施設を視察した。</li> <li>4. 食空間および静養スペースに求められる空間・設備条件の検討</li> </ol>		
研究成果の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 昼食時の食事環境 放課後児童クラブでは、昼食の時間は、食事を楽しむとともに食事のマナーや後片付けの仕方、自主性を身につける時間ととらえている。児童は各自のペースで食べることができているが、その一方で早く食べ終えた児童が待機する場所やルール等が必要となっている。食べる時間に個人差があるため、食事時間の騒音レベルは全員が食事をしている時間帯よりも食べ終わった児童のいる時間帯に高くなる。 また、夏季の外気温は30℃を超えるが、対象施設では、エアコン使用により室温は26℃前後に保たれている。児童が持参した弁当は、昼食時まで児童の個人ロッカー等室内で保管され、衛生管理面の問題はないと指導員は考えている。</li> <li>2. 夏季の休息時間の過ごし方 学校休業中、児童が放課後児童クラブですごす時間は長く、暑さも厳しいため、クラブでは昼食後に休息時間を設けている。休息は活動室で行われ、過ごし方は、読書、静かに室内遊びをする、室内を暗くし音楽をかけて横になる、昼寝をする等、クラブによりさまざまである。  以上より、昼食は一斉活動として行われるため、食べる時間の個人差への対応が課題である。また、昼食、休息を含むすべての活動を活動室で行うため、遊びから食事、食事から午後の休息など、次の活動への移行のために準備・片付けが必要となっている。これらの課題を考慮した空間構成を検討する必要がある。</li> </ol>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について〔 <input type="checkbox"/> （該当事項）にチェックをお願いします。〕			
外部資金獲得申請（予定）	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 （                      ）	研究成果の公表方法（予定）	<input checked="" type="checkbox"/> 学会（国内・ <del>国外</del> ）： <input type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等： <input type="checkbox"/> その他：